

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	自閉症児とことば
Author(s)	谷田貝, 公昭
Citation	児童の言語生態研究 , 6 : 51 - 55
Issue Date	1973-11-30
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045072
Right	
Relation	



自閉症児とことば

谷田貝公昭

I はじめに

世界で最初に自閉症という言葉を用いて症例報告をしたのは、アメリカの精神科医カナー（L. Kanner）で一九四三年のことである。翌一九四四年オーストリアの児童精神医学者アスペルガー（H. Asperger）は、カナーの業績の情報を全く知ることなくして、同様な報告をしたのである。それ以後、いわゆる「自閉症」症候群についての関心は高まり、急速に注目され出したのである。

わが国においては、一九五二年驚いたえ子により初めて自閉症の症例報告がなされ、それ以後医学を中心に教育学・心理学等各方面からの研究がなされてきた。今日では、社会的にもクローメアツアされ、幼稚園就園及び小学校就学の問題までとりあげられるようになり、事実それに関した運動もなされてきているのが現状である。また、わが国の自閉症研究は、一種独特の道歩んできたと言われている。それは、自閉症という訳語に混乱をきたしたため、自閉症の概念規定、診断基準、および範疇の問題などに研究の重点がおかれしてきたからである。では一体自閉症とはどのようなもの

なのであろうか。一般的には、自分の殻に閉じ込められ、人とのコミュニケーションのない状態といわれている。しかし、自閉症についての定義は、現在までのところでは、まだ確立されていないのである。それだけに自閉症を理解しようとする場合相当数の子ども達に接してみないかぎり難しいものと思われる。そこで加茂瑞江らのあげている自閉症の特質を記すと次の7項目である。

1. 自分だけの世界に閉じこもる。
 2. 人間への無関心
 3. 言語の異常性
 4. 固執性と常同性
 5. 感情の強い爆発性
 6. 知的能力の特異性
 7. 生活習慣の遅滞
- これからみても自閉症児のことばの問題は、自閉症を説明する重要な一つの鍵と考えられるが、まだ謎にまつまれた状態である。

平井信義は、自閉症児のことばの遅れとして、次の三つのことが考えられるとしている。

第一は、自閉性が強いために、それが基盤となって、ことばがおくれているようにみえるのではないか、第二には、知的能力が同時に遅滞しているために、それが影響しているのではないか。第三に、自閉症児のことばそのものに特異性があるのではないか。しかし、これは一つの仮説であって、憶測の域を出ない。

II ことばの特徴

自閉症児のことばの特徴としては、次のようなものがあげられる。

1. 発達の遅滞
- だいたいにおいて、彼等のことばの発達はおくれているのが普通であり、たとえ発語しても数語であることが多い。三、四才になってもことばが出ないため異常に気づくことも多く、とくに自閉症児は、女の子よりも男の子に圧倒的に多く、昔から男の子の話し出すのはおそい、と言われていることもあってか、いずれ話し始めるだろうと考えている親が多い。では全くことばを知らないのかと言うと、そうとは思えないことが多々ある。

たとえば「窓を閉めてちょうだい」とか「水道を止めてちょうだい」などと言うと、素直にする場合もある。また、道路を横断する際に、信号機を見ずに渡ろうとする母親に対して「イマハ アカイロチス」といって、びっくりさせたこともあった。これらからみると、彼等は全くことばを知らないとは考えられない。貯えとしてのことばはかなりあるのだが、ただ使わないだけだと言える。

2. 応答の欠如

応答の欠如は、ことばの面はもちろん行動の面にもみられる。何を話しかけられても、われ聞せずで、自分の好きなこと、興味のあることだけをしている。だっこしても、目さえ合せようとしないし、発語がかなりあるようになって、「ハイ」という返事は全くといってよい程しない。だが「いや」ということばの方は比較的容易に用いるようである。これらは自閉症児の非常な特徴の一つと言える。したがって、精薄、難聴などとまちがえられることもある。

3. オーム返し

オームに「オハヨウ」というと「オハヨウ」と言うのと同じである。水を飲みたい時、彼等の多くは、大人の手を引いて、水道のじゃ口までつれて行く。その際「お水ちょうだいっていいなさい」と言うのと「あれちょうだいっていいなさい」ということばが返ってくる。我々のところには、佐良直美の「世界は二人のために」のレコードを一年間程治療にくるたびに聴き続けた男児がいた。最初のうち彼は治療者の手を引いて、レコードをかけて「いいなさい」といって、いわなければ

コードをかけないという方法をとったところ、「レコードかけてっていいなさい」というオーム返しがいよいよ続いた。しかし、半年程で「っていいなさい」はとれ、「世界は二人のために」という曲名も、約半年で同様な経過をたどって、言えるようになった。

普通の子どもの場合は、一才半から二才半頃このオーム返しをする子どもがいるが、自閉症児の場合は、これが4才になっても、5才になってもすることが多いのである。

4. 抑揚の欠如

「Uちゃん、ブランコにのってるよ」
などかなりことばがでるようになっても、抑揚がなく、一本調子で、高い声で話すのが特徴である。これはことばに感情のこもっていない証拠といえるだろう。だが歌をうたうと、正確なメロディーで歌うことが多いから不思議である。

5. 独語

日常生活をみていると、なにやら独語していることが多い。普通2ノ3才前後の子どもの遊びをみているとよくあることだが、自閉症児の場合は、これが5才6才になっても続いていることが多い。よく聞いてみると、完全にことばとして理解できるものよりも、わからないことの方が多く、それらは「ブチュブチュ」「ウーウー」などのくり返しである。

6. 反復言語

テレビのコマーシャルをくりかえしたり、同じ質問を日に何度もして、まわりの人を困ませたりすることがある。普通幼児期の子どもは「これなあに」と聞くことが多いが、それなりの返事を

すれば、同じことをたて続けに質問したりはしない。しかし、彼等はそれをするのである。自分なりの独自の解答をもっていて、それに合った返事のあるまで、同じ質問をくりかえすのかもしれない。

以上が自閉症児のことばの特徴である。これらは全て一度期にあることよりも、ある時期によって、独語、オーム返しが目立ったりして、時により変化するものである。

III 事例

この事例は、自閉症と診断された子どもに幼稚園という場で遊戯療法を通し、週3回(一回二時間)接触してきた記録である。

1. ケースの概要

T・S 男児 来所時年令5才8ヵ月、異常に気づいた年令4才2ヵ月。

主訴 自分に必要な時、簡単な言葉で要求する以外は話しをしない。声は高く一本調子である。気に入らないことがあると相手に手を出す。自分で興味を持ったものに対しては長時間没頭する。

家族歴 父29才、母31才の時本児出産4才年上の姉が一人、父は大学院終了、某私立大学助教授。母は旧制専門学校卒、全てに対して批判的で、とくに子どもに対してそれが強く、客観的、観察的にみる傾向があり自己主張が極めて強い。母方の祖父は発明家である。

成育歴 別表のとおり。

	生活及び健康状態	食 事	発育 状 態	言 葉
妊 娠	母は長女が難産であったため、出産に対して、大変不安をもっていた。			
出 産	10カ月で出産 難産で異状分娩 (プージ使用、早期破水) 体重3098g			
〇 才	寝つきが悪い 下痢や風邪をひくことが多かった	授乳は混合 量にむらがある 不規則 離乳4カ月～12カ月		
一 才	健康は比較的良好	食欲にむらがある 偏食	おむつのとれた時期 12カ月 始歩期17カ月	始語期13カ月
五 才	病気はほとんどしない	食欲にむらがある 偏食 ハシをにぎるが、手で 食べる方が多い 一人で食べる	着脱は一人では 不十分	口数は少ない 発音は正確 話し声は高い 一本調子 オーム返し有り

現病歴

言葉はオーム返しが多く、人や物に対して気に入らないことがあると非常に興奮し適応性がない。登園してきても物に対する興味は極端に限定され、砂場で砂山をつくることに最高の興味を示した。退園時まで続いたものとして、女の子の結んだ長い髪に、鼻をつけ臭いを嗅ぐような格好をし、時々身体を震わせることがあった。

通園に利用する電車は、車体の黄色のものには絶対

乗らず、時には黄色い電車をみただけで非常に興奮し、逃げ隠れした。また、本児の乗った電車が他の電車とすれ違う際、耳を両手で覆って震えた。4才当時、蝶を追いかけ、図鑑と首引きになったり、図形に対し強い興味と能力を示した。6才当時から、旗、漢字、車、建物に興味を示した。旗については、船の信号、アメリカの州旗、世界各国の国旗に異状なほどの興味を示し、色柄、形など全てを記憶していて、家族の者や治療者に作らせたり、自分でも作ったりした。しかし、登園した際は決して自分で作ることはしなかった。治療者には、色紙をマッチ箱よりやや大きめに切って、ノリで貼って作らせたが、家ではレゴでも作らせた。ハサミは正確に使えない。これら旗に対しての興味や記憶の異状さはある百科辞典の誤りを2カ所も発見し、その出版者から「次の版から訂正する」という手紙をもらった程である。漢字については漢和辞典を見て自分で書き、相手にそれを読ませ、読めない場合は大変に怒った。(クレヨン、マジックを使用することが多かった) — 大変に難しいもの多くて読めない方が多い — 漢和辞典は専門家の使うようなものを用い、生徒たちや一般の人の使うようなものには興味を示さなかった。また、ほとんどの車の名前を記憶しており、建物なども変わったものを見ると、それらを真似てレゴで再現した。家において、これらのことをする際、レコード(クラシック)を聴きながらすることが多く、4才くらいから音楽に異状な興味を示した。ウェートーベンの曲を嫌い、何曲ものレコードの中から、その曲だけは聴きわけた。色に関しては、薄い青と濃い青との区別ができない他は全て理解できた。退園のまぎわには、簡単な話を短い話し言葉ではあるができるよ

うになった。

本児の家庭での遊びや行動に関することについて列記する。 — 入園当初、母親の話しから —。以前は積み木が非常に好きで、家から見える自動車を真似て、熱心に作った。積み木で遊ぶ時、それにライター、コップなどちがった材料をまぜて使った。最近では戸外で砂を使って遊び、タンブカー、エキサー車などを実際に作ることに興味を示し出した。絵を描くことは好まない。本の整理が好きで、何がどこにあるか記憶しており、新しい本が入ると、分類する。暗いところは恐がり、夕方になると自分で雨戸をしめ、電気をつける。食器類に興味を示し、名前をおぼえる。気に入らないと、そのものにあたる。

2. 治療記録の中より主なものを抜粋し、経過をみていく。

4・1V初めて登園、庭のまん中にしゃがみ、砂を集めて山を作る。フルイを与えるとその中に入れて砂を落とす。パケツを渡すとフルイはどかし、パケツに砂を入れて遊ぶ。砂場に誘い入れようとすが、砂場の近くまできて、怒ってパケツの砂をあげてしまい、その場にすわり、前と同じことをくりかえし始め、砂場はどうしても入らない。

4・14V水道で水をいたずらしはじめる。ジョーロを渡すと、水を入れてはテラスにまく。それをくりかえしするので、治療者が蛇口を堅くしめると、怒り出す。「だしていいなさい」というと、「だしていいなさい」と言い、何度となく、同じことをする。

4・28V治療にきているそばへ寄って来られても、何ら反応を示さない。じっと見つめられると、怒って

積み木で叩きに行った。

△5・16Vすべり台に「のぼろう」と声をかけると、「のぼろう」と自分でも言いながら登ってきた。手を差し出すと、手につかまっで一一緒に登る。

△5・19Vままごと道具のそばにすわり込み、中に入っているもの一つずつ出して自分の廻りに全部並べる。Uが寄って来て、ままごと道具にさわるが怒らない。「バナナとリンゴを赤ちゃんにあげて」と言う。「はい赤ちゃん」と言いながら渡す。Iが窓の棧にのっているのをまねる。幼稚園児や治療に通って来る子どもたちのまねをすることが多くみられるようになってきた。

△7・11V水道の水を沢山出して遊び出す。そこに発泡スチロール製の自動車や船を浮かせてやると、「ピチャピチャ自動車」と何度も言いながら遊ぶ。治療者が蟻の巣の絵をみせて「蟻さんの家、ここが玄関」といって説明すると、真似て同じことを言う。そのうちに、ジョーロに水を入れて庭にとび出し、蟻の巣に水をかける。治療者が「大水、大水」といったり「蟻さんの家、大水になっちゃった」というと、何度も正確にくりかえし、口真似する。

△7・28Vしゃぼん玉を作ってみせると「しゃぼん玉とんだ：」と正確に口ずさむ。液を与えると飲んでしまう。うがいさせると、変な顔をしながらもする。△8・30V砂場に積み木を持って行き、山を作ったり、水を入れたりして遊ぶ。「おにわでドロッコ、山でも川でも、お山ができた」とひとりごとを何度も言いながら遊び、めずらしく、この日はレコードを一枚も聴かずに終った。

△9・12V治療者の顔を見て「オホヨウ」ができた。ほかの子どもが砂山を作っているのを見て、怒った。

水遊びを全くしなくなつた。

△10・4Vほかの子どもが砂場で遊んでいるのを見つけると、走って行き、いきなり肩をつかんで「ウーッ」とうなり声をあげて怒った。庭に砂場から砂を運び山を作り始めたが、手で砂を運んでいるのでパケツを貸してやるとそれで運んだ。おやつ時間になっても山作りを止めない。砂山に指で穴をあけているので、大きなトンネルを作ると気に入らしく、怒りもせずにそこに積み木を何度もぐらせて遊んだ。指で地面に線を書くので、聞いてみると「川」と答えた。

△10・24V門の前を素通りしてしまう。——このところ3回ほど、園に入るのをいやがる——治療者が追いかけて行き、幼稚園へ行こうと誘ったがきかないので空地で遊ばせておいた。砂遊びをしているので、母親と治療者が砂集めを手伝う。コンクリートの大きな管が置いてあるのを見て、「トンネル」と何度も言いながら、遊んでいるうちにその上に登ったので、治療者がすぐ抱きかかえて、「さあ行こう」と言うと、「何がさあ行こうだ」と言ってあばれたが、無理に幼稚園へ連れてきた。中に入り門を締めてしまったら、あきらめたらしく、泥こねを始め、機嫌よくなった。

△11・10V家庭連絡ノートに、自分の世界を他人に壊されるのを嫌い、本児は被害妄想にかかっている、と母親が記して来た。——入園当初治療に通ってくるM男に、砂山を壊されたことが原因だという——。また母親から、しばらく休ませた方が良さうだとの申し出があり、こちらもそれに応じる。ノートには、数日前、M男や他の治療に通ってくる数名の母子を自宅に招いた日にも、M男が本児のものを壊し、大変にあばれたと書いているが、ほかの母親に聞くところでは、そのようなことはなかったとのことである。しかし、

本児の母親は、とても興奮気味であった。

△11・24V途中3回ほど休み登園、エネスコ村で買ったという貯金箱を持って来て、母親は本児の機嫌の悪い時でも、これを出せばなおるといってよこしたが、本児はそれに全くこだわることなく調子がよくなった。良きにつけ、悪しきにつけ何かのせいにして、一方的にきめつける母親であるが、H先生に6日程前にカウンスリングをしていただいてから気持が落ち着いてきたようだ。

△12・8V「北東の風」及び「雨から雪」を表わす旗を作るのに積み木を使おうとしたが、三角形のそれがなく、怒ってあばれるので、四角のそれを切って三角形の積み木を作ると、機嫌よく遊ぶ。——12月に入ってから旗作りを盛んに始めた。

△1・12V天気を表わす旗に興味を示していたので、登園する前に万国旗を並べて置くと、それに興味を示し、これ以後、万国旗には異様な興味を示した。

△3・9Vひとりごとが多いが、言葉は滑らかに出来るようになってきた。「ウリッッに笑われるよ」「ビスケットに笑われるよ」これらは自分の気に入らない時使う。その他「うんちになっちゃうよ」「バカもん」などとよく言っている。また、治療者が「ノリはここ」と示すと「ノリあった」など簡単な応答ができるようになった。今月あたりから言葉が多くなり、車の流れを見ながら「コカ・コーラの車はお休みね」「あのトラック、何を積んでいるのかな」「クリーニング屋のおじちゃんがいる」「牛乳屋さん働いている」等々言うようになった。

△6・27V子どもがブランコから落ちたり、牛乳をこぼしたり、食事中落ちつかないのを見て、盛んに笑った。

△8月V―休暇中の家庭連絡ノートから―盆おどりを見に行くが、その人の群の中に入ろうとしなかった。来客があるとサーピスしたり、母親に親切にした。また母親が姉のためによく仕事をやってためか、姉が長い髪を切ったためか、姉との仲が悪くなった。母親が姉に食事の手伝いをたのんだ場合、姉が知らない風をしていると、彼女につきまかかってケンカした。△9・26V登園してくると、他の治療に通って来る子どもたちの名前を呼びながら追いかけて歩いた。また、万国旗、州旗、船の手旗信号に興味を示し、それらの多くは、色紙を切って作らせ、以後それらを作るために登園してからのほとんどの時間を使うようになった。

△11・9Vまたは漢字に興味を示し出し、次から次へと記憶していった。―漢字は家で、旗は園でと自分で決めていたようである―。

△11・30V旗を作らせながら、家での出来ごとのうち、簡単なことを話すようになった。「パパおふろで、ナ―ッてやるよ」など。―声は高く、一本調子であるが、発音は正確―。

△1・11V就学のため、公立小学校へ身体検査に行ったが、教室の壁にはあった万国旗の図の前から離れなくなり、それをもらってやったが、旗のことで興奮気味で、知能、視力、聴力の検査はできなかった。

△4・1V1年遅れて、公立小学校に就学した。
考察は省略する。

IV おわりに

自閉症児のことは、他人との情緒的なつながりを持たず、全くコミュニケーションの役に立たず、自分勝手なことを話していることが多いのである。しか

し、気の長い治療によって、コミュニケーションとしてのことばを回復することもあるのである。

アスペルガーのことばをかりて結びとする。

「困難な問題をもった人間には、生命の深奥を照らすような、極めて魅力的な問題があるものです。そのような人間についてよく認識し、また、認識しようと努力することによって、初めて、その人間は、決定的な救いを得るのである。」

